

利用者・保護者および関係者各位

社会福祉法人おおぞら会

あすはKids 管理者 三浦明雄

「放課後等デイサービス評価表」の集計結果 及び評価に基づく改善計画について

日頃よりあすはKidsの事業に対してご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

また、「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」の記入にご協力いただきありがとうございました。

この「評価表」は、毎年実施しており、今回は**2019**年度の取り組みについて、対象となる利用者・ご家族に配布し、ご記入いただいたものです。集計結果は、別添のとおりです。以下、その内容を抜粋掲載し、**2019**年度の課題についてご報告すると共に、**2020**年度改善計画を立てましたので、ご確認ください。これらの内容について、ご意見ご質問があれば遠慮無くお寄せください。

■「保護者向け放課後等デイサービス自己評価表」の集計結果について

保護者向け評価表の回収率は、約**69%**（回答数**30**）でした。

保護者向け評価表結果の主な内容は、以下のとおりです。（評価表全項目の集計結果は別添のとおりです。）

保護者向け放課後等デイサービス評価表の集計結果（抜粋）

設問内容	①	②	③	④
子どもは通所を楽しみにしているか	27	3		
事業所の支援に満足しているか	28	2		
支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	29	1		
放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか	9	14	6	1
父母会の活動の支援や保護者会の開催により保護者同士の連携が支援されているか	25	5		
子どもや保護者からの苦情について、(中略)迅速かつ適切に対応しているか	26	3		
緊急時対応マニュアル、(中略)を策定し、保護者に周知、説明されているか	25	5		
非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練、救出、その他必要な訓練が行われているか	18	12		

①はい ②どちらともいえない ③いいえ ④未記入

■2019年度の取り組み状況

2019年度は以下の点を課題として取り組みました。

1. 地域との交流を深める。
2. 火災時の訓練、大規模震災を想定した訓練と計画的に訓練を実施する。

1. について

設問項目にある「児童クラブや児童館との交流」は具体化していません。この問題は、一事業所の努力で図れるものではないと考えます。市行政の判断やイニシアがなければ進めることはできません。「障害

のない子どもと活動する機会」は、あすはKidsの活動が、基本的に近隣の公園に出かけていって遊ぶことになっているので、時々公園内の健常児と関わる場面はあります。しかし、これとて意図的計画的な交流ではありません。障害のない子どもとの交流が、地域の中で仕組みとしてない中で、この課題の達成はできません。この項目については、豊富な実践例の提示を求めたいと思います。

しかし、あすはKidsは、毎年「地域との交流」を方針に掲げて、近隣の都立武蔵野中央公園での、花壇作りや植栽、落ち葉拾いなど、管理事務所の協力の下実施してきました。また、近隣武蔵野市立小学校校庭で開催される「どんど焼き」に参加したり、ハロウィンの時期に近隣コミュニティーセンターの職員に協力してもらい、来所した子どもたちにお菓子を手渡してもらうなどの取り組みを進めてきました。こうした活動は、直接的に障害のない子どもたちとの交流を指すものではありませんが、地域交流の一環として位置づけられるものと考えています。

2. について

今年度は、火災や震災時の救護、避難方法について職員を対象とした学習を行ないました。東京消防庁ホームページにある学習用動画を活用したり、負傷者の搬送方法の実際を学んだりしました。また、「災害伝言ダイヤル」を実際に操作して、伝言メッセージの入力方法や聞き取り方法も学びました。さらに、備蓄品等のリストや保存場所を全職員で確認しました。

避難方法については、まず職員が避難に際して行なわなければならない行動を手順に沿って確認したり、自主的な避難が難しい障害のある子どもへの対応について話し合ったりしました。

大規模震災を想定して、地震発生時の対応訓練を子どもたちと一緒に行ないましたが、訓練の意味や内容を子どもたちに理解してもらい一緒に行動することの難しさを改めて感じました。また、この訓練は1回行なっただけで、他曜日利用の子どもたちには行えませんでした。訓練内容や回数については見直さなければなりません。

以上、その他の点も含めて、引き続き皆様からのご意見を拝聴しながら、課題解決に向けて取り組んでいきます。

■ 2020年度の重点課題

2020年度の重点課題を引き続き以下の2点とします。

1. 地域の方々と交流を深めていく。

・これまでの「地域との交流」を継続しつつ、さらに交流機会を増やせるようにしていく。障害のない子どもとの交流については、地域自立支援協議会等にも問題提起していく。

2. 火災時の訓練、大規模震災を想定した訓練と計画的に訓練を実施する。

- ・消防署と連携して、火災発生時の避難、消火、通報訓練を実施する。
- ・初動行動マニュアルをもとに、伝言ダイヤルの使い方、避難所までの誘導訓練等を行う。

これらの訓練内容について職員で学習すると共に、できるだけ多くの子どもたちが体験できるようにしていきます。

以上